

令和5年度 第2回教科用図書東濃採択地区協議会 会議録

東濃採択地区協議会事務局

I 日 時 令和5年7月19日(水) 9:30～16:30

II 場 所 東美濃ふれあいセンター 歌舞伎ホール

III 出席者 委員35名中35名出席

IV 議事要旨 【進 行】東濃採択地区協議会 会長

1 会長あいさつ

- ・第1回協議会において承認された研究員が、綿密な調査研究を行い、その結果を調査研究結果として取りまとめ、本日報告いただく。
- ・小学校用教科書についての協議が中心となる。また、調査研究は行っていないが、中学校用教科書も採択年度であるため議事に挙げている。
- ・研究員からの報告について慎重かつ積極的に審議し、各市の採択へとつなげていく。
- ・東濃地区の子供にとって、最もふさわしい教科書の選定をお願いしたい。

2 会の成立確認及び開会

- ・委員35名全員出席 → 協議会の規約第11条の規定により、会の成立を確認。
- ・本日の協議会は、教科書採択の公正確保のため非公開とする。

3 経過報告

- ・6月14日から7月7日の間、各種目4回の研究員会を実施し、研究調査を行った。
- ・6月14日から27日にかけて、東濃地区内6会場で教科書展示会を開催した。

2 議 事

(1) 令和6年度使用小学校用教科用図書に係る調査研究結果の報告及び質疑応答・協議

・全種目について、研究員が「東濃採択地区基準に即した具体的な調査内容」と「調査研究結果(意見書等)」をもとに報告を行った後、質疑応答・協議を実施した。

① 【種目：国語】

- | | |
|-----|--|
| 委 員 | 昨今、言われている教科書の重さが子供たちにとってどうなのかということについて研究 |
| Q 1 | 委員会の中で話題になっていたら教えていただきたい。 |
| 研究員 | 東京書籍と光村図書については、1年生から4年生までは上下の分冊になっていて、教育 |
| A 1 | 出版のみ1年から6年生まで上下の分冊になっている。それぞれについてメリット、デメリットがある。5・6年生の内容については、少し重くなるが、1冊にまとまっている方がよいという話題が研究員会であり、検討・確認をした。 |
| 委 員 | 見方・考え方を働かせることが深い学びにつながると言われているが、その辺りを子 |
| Q 2 | 供にも意識させるような配慮があるとよいと思う。読み取りで見方・考え方を働かせるというのはいかようなことかということ、子供が意識できるような配慮が各者の学習の手引きに |

- あったのなら教えていただきたい。
- 研究員 A 2 東京書籍には、左側に解説があり、「コトハの力」という双葉のようなマークの部分のポイントとしてある。ここを見て子供も教員も見方・考え方を働かせることについてとらえることができる。光村図書にも、目標の下に見方・考え方を働かせるとはどういうことかが示されているので、子供も分かるし、先生も指導がしやすいと思っている。
- 委員 Q 3 最近、QRコードが、かなりついているが、これは授業の中で活用されるのか、あるいは、家庭に帰ってから活用するのか、どのような使われ方をされるのか。
- 研究員 A 3 授業でも使用するし、タブレットを持ち帰っているところは、家庭でタブレットを使って読み込み、繰り返し使用することができる。たくさんあるので、全部活用するというよりは、自分で取捨選択して活用したり、教員からの指示で活用したりする。さらに自分が進めていきたいところについては、自分で進めていき、繰り返し学ぶという形で活用していけると考えている。
- 委員 Q 4 光村図書は、2年生以降から教科書の最初に、できるようになりたいこととか、これから楽しい学習について、それぞれ書き込みができるようになっている。これについてどのような効果があると評価されたか。
- 研究員 A 4 授業の最初に、自分たちがどんなことができるようになりたいのかということをもみんなで共有して、教師も把握し進めていくことができると考えている。授業の最後にも、いろいろな評価の仕方や観点があるが、最初に思い描いたことが、どれだけできたかということにもつながられるので、大変有効だと考えている。
- 委員 Q 5 書いて表現するということが苦手な子供が増えてきている。書いて表現するということについて、3者にどのような違いがあったか。
- 研究員 A 5 説明的な文章の内容や書きぶりについて学んで、それを表現に生かすということの繋がりが一番意識されていると感じたのは光村図書だった。それ以外の出版者も繋がりはあるが、光村図書が一番繋がりを意識して教科書が作られていると研究会の中で話題になった。
- 採決 <全員一致により、**光村図書出版の教科書を選定**>

②【種目：書写】

- 委員 Q 6 国語と書写は発行者によって何か連携しているのか。同じ発行者を採択することによるメリットは何かあるのか。
- 研究員 A 6 発行者が同じだとパンフレットやポスターを作るという学習が国語で設定されていた場合、その学年の書写でも、それに繋がるような配慮がなされていることが多い。どの発行者も学習指導要領の内容を扱うので、発行者が変わっても問題はないが、同じ発行者の方が繋がりが強いため、メリットはあると考えている。
- 議長 Q 7 QRコードの先を研究調査の対象に入れて正解だったということ、今の答申を聞きながら思っている。非常に手厚く子供たちが学びやすく、ガイダンスが動画等で示されていることはよく分かった。しかし、先生は何をするのかということも思った。たくさんの動画があって、「次はこれだよ」「さあ、やっごらん」というような動画がたくさんあるのは、子供たちにとって、そして指導する先生にとってどうなのだろうと疑問に思う。調査研究する上でたくさんの動画を見ていると思うので、そのあたりについてどんな感想をもったのか教えていただきたい。
- 研究員 A 7 書写でいうと、いろいろな授業の流れがあるが、先生が大きな水書板で書いて見せるというのが一般的だと考えている。水書板に加えて動画があることによって、子供たちはタブレットを机に置き、その動画を繰り返し再生しながら練習することが可能になる。もちろん、動画を見るだけで子供ができるようになるかということ、そこには大きな壁があるので、先生

は子供たちのところを回りながら、子供たちの手を取って、指導・助言・評価等を行っていく。動画がない時代だと、先生が一人で全てを行う、または、DVDでずっと流しておくというやり方だった。子供たちの手元にタブレットがあることで、自分のペースで何回もやりたいという子もいれば、見なくてもできる子もいるので、より多様な対応、多様な指導ができ、子供たちにもメリットがある。先生の労力は減るが、回りながら直接手を取って指導したり価値づけたりすることに繋げられるので、授業が進めやすく、力が付けやすい。

委員 一年生の鉛筆の持ち方では、東京書籍が非常に分かりやすい。左利きの児童への配慮もの丁寧だという印象をもった。

委員 筆順の指導という点で、QRコードも含めて充実具合はどうだったか。

Q8

研究員 動画で自分の書き順があっているかを確認できる。漢字の筆順については、書写というよりも日々の国語の授業の中で、間違えやすい漢字を中心に繰り返し確認をしていくことが指導の中心となる。

A8

委員 子供の机の上に書写の道具や教科書、タブレットを置いて学習することは可能なのか。全てを置くことは難しいのではないか。

Q9

研究員 理想は、習字の道具とタブレットを置き、それを見ながら書くことだが、難しい場合は、先にタブレットを見てイメージしその後しまつて練習する、または、大型モニターなどに映し、リピート再生してそれを見ながら練習する、等の対応になる。

A9

委員 ICTが入ってきたことで、小学校の低学年においては、紙に文字を書くという回数が減ってきているのではないか。字形や筆順、筆圧等についても学習する回数が減ってきている。低学年の教科書の中での工夫、特色があれば教えてほしい。

Q10

研究員 低学年には、毛筆の前段階の水書がある。水書は毛筆で書くような筆圧が学習できる。光村図書には、水書で練習する場面がきちんと設定されているので、ここで筆圧の練習ができる。このような配慮がされている。

A11

委員 書写は国語と違って、実技が多いので、国語が苦手な子も結構楽しくできるのではないか。また、作品が仕上がると達成感があるのではないか。だから、教科書はたくさん書きすぎていない薄い方がよいのではないかと思う。光村図書は、簡潔だったのでよいと思った。国語の教科書と一緒にの方が、いろいろな授業の中でリンクができるというメリットがあるので同じ発行者がよいと思った。

委員 書く道具が、筆ペンや墨汁となっている。どの教科書にも墨を擦るということがなく残念に思う。これについてはいかがか。

Q12

研究員 墨を擦ることで心を整えることができる。その点では重要なことだと思う。しかし、毎時間行うというのは難しい。最初や慣れてきた頃に墨を擦るという経験をさせたい。一番使うところは、書初めのところではないかと思っている。

A12

採決 <全員一致により、光村図書出版の教科書を選定>

③ 【種目：社会】

委員 5・6年の教科書が東京書籍は上下の分冊となっていて、日本文教と教育出版は1冊にまとめてある。このことについて調査研究する中で何か話題になったか。

Q13

研究員 5・6年は学習内容が多いということで、分冊になっていた方が子供たちの重量的な負担が少ないのではないかということが話題にあがった。

A13

委員 東濃地区の教員や子供たちの実態を踏まえたという点で、東京書籍の評価が非常に高いが、比較資料を見ると、さほど大きな違いがないように捉えられる。もう一度簡潔に東京書籍が東濃地区に非常に良いということの説明をお願いしたい。

Q14

- 研究員 A14 東京書籍は、どの単元を学習する時にも「つかむ・調べる・まとめる・生かす」という流れになっている。先生にとっても子供にとっても学習しやすくなっている。また、児童が関心をもって読み進め自主学習に生かすという点でも、東京書籍は「キーワードとなる言葉」と「難しい言葉」という2種類の言葉の説明があり、辞書等を使って調べなくても自分で学習できるというところが優れている。
- 委員 Q15 「3者の比較説明資料」では、2次元コードを利用した多くのデジタル教材が準備されているとあるが、ICTの活用に関わる「基準に沿った各者の評価」では、東京書籍の評価は低くなっている。どういうことか説明してほしい。
- 研究員 A15 研究員会の中では、それぞれの項目について十分工夫されているか配慮されているかということ投票形式で評価した。日本文教出版は、特にQRコードの内容が多くあり、教育出版はそこそこあった。東京書籍は、何もないというわけではない。特に日本文教出版がこのICTを活用した学習という点でいうと優れていたと研究委員会では評価した。
- 委員 Q16 他の発行者は白黒写真を採用しているが、教育出版の教科書は、カラーで掲載しているという説明があった。見やすいためにカラーで復元していると思うが、カラーはとても見やすいが、時代を新しく感じてしまう印象があった。あえて昔のまま写真に掲載の方が、時代が響くのではないか。
- 研究員 A16 研究委員会でも、どちらが良いかという議論にはならなかった。カラー映像に慣れている子供たちから見ると分かりやすいということもあるし、白黒写真の方が時代を感じるということもある。
- 委員 歴史を学ぶという観点からすると、資料がオリジナルであるということは大事なのではないか。子供の学びやすさもあるが、やっぱりオリジナルのものを変えることの危険性というものもあるのではないかと思う。
- 委員 Q17 現代史の扱いに違いはあったか。
- 研究員 A17 特に大きな違いはなかった。ただ、直近のことだとコロナ感染について3者に少し違いがあった。日本文教出版は、「2020年コロナ感染症、深刻な状況」と明記してあった。教育出版は、「近年、世界的に広がる感染症への対策が必要」と書いてあった。東京書籍は、そこまでの明らかな説明は見当たらなかった。
- 委員 Q18 トヨタ自動車や東濃の食等、東濃の特徴がたくさん記載してあるところの評価が高いように見受けられた。それありきで進んでいたのか。
- 研究員 A18 全国の他の給食よりも中津川市の給食「恵那鶏」が載っていた方が親しみがわくかと思う。自動車工業も愛知県というすぐ近くのところということで福岡県や三重県よりも親しみを覚えるのではないかと研究委員会では話し合われた。
- 委員 Q19 社会は情報が多く、覚えていくことも多いが、「自分たちは、どうしていこうか」と考えていくことが大事だと思う。それぞれの教科書において、情報を得た後の行動につながるような工夫について、何か違いはあるのか。
- 研究員 A19 どの発行者も発展的な内容を取り扱っている。「もっと知りたい」というコーナーがあり、発展的な内容を取り扱っている。日本文教出版だとQRコードを使って自分で追究したいことを選んで学習を進めることができるようになっている。
- 委員 Q20 QRコードの問題については、「基準に沿った調査研究による各者の評価」を見ても、東京書籍の評価が一番低い。歴史等はQRコードからいろんな情報が得られると思う。東京書籍が比較的QRコードがついているページが少ないように思うが、そこについては、どのように考えているか。
- 研究員 3者の比較資料にもあるように、日本文教出版のQRコードについては、二次元コードの

- A21 資料があった。順番を作るわけではないが、その次は文教出版だった。東京書籍が少ないからいけないというわけでもない。詳しい一つ一つの内容までは、全て確認できていないが、数としては絞った内容であったと思う。
- 委員 Q22
数としても少なかったということか。
- 研究員 A22
意見書に具体的な数は書いてある。日本文教出版の数が多いが、決して教育出版や東京書籍が少なすぎるというわけではない。
- 委員 Q23
東京書籍のQRコードをいくつか見ると単元の最後にワークシートのリンクがあり、それを印刷して使えるようになっている。社会の授業では、関連するコンテンツが見られるというのは、学びやすさや主体的な学び、関連している内容への広がりという点から重要なのではないか。ICTの活用という点でいうと、各発行者に大きな違いがあるのではないかと思うが、その点はいかがか。
- 研究員 A23
二次元コードを見たときに、動画・ワークシート・地図・クイズ等、いろいろなタイプのものがある。それが、日本文教出版が一番コンテンツとして多く、東京書籍が一番少なかったということ。
- 委員 Q24
縄文時代と弥生時代の絵が非常に見やすい大きさという話について、これは、あくまでも絵を描いた人の想像図であり、その人の意図というものがある。内容という点では、どの発行者の想像図を使っても大体必要な情報は得られるという感じなのか。
- 研究員 A24
画面の大きさ、見開きで見られるか、ページをめくらないと見られないかという点では、大きな違いはあると研究委員会では話題にあがった。描く人の意図があり、それが反映されているとは思いますが、内容はそれほど変わらないと思う。
- 議長 Q25
提示されている資料のサイズの違いはあるが、子供たちに気付かせたい内容についてはほぼ同じということによろしいか。
- 研究員 A25
はい
- 委員 Q26
「3者の比較説明資料」を見ると、3番目の調査項目「東濃地区の教員及び児童の実態を踏まえた教育の充実に関すること」で、3者とも単元の導入では、「学ぶ視点が明確にされた学習課題が提示されている」と記載されていた。そこで、「まとめる」という段階では、違いが分かるような記載があるのかを見てみた。東京書籍の「まとめる」というところがすごく分かりやすく、他のところは少し分かりにくいと感じた。調査されたところでどのような違いがあったか教えてほしい。
- 研究員 A26
「まとめる」の段階のところまでは、十分な調査はできていない。学習の流れについて見たときに「つかむ・調べる・まとめる・生かす」という流れで作られている東京書籍が、先生にとっても子供にとっても分かりやすいと思う。
- 委員 Q27
戦後80年経つが、近代史の記載に若干差があるような気がする。東京書籍は、この近代の日本について、ページを割いていないような気がする。SDGsの問題も他の発行者のほうが多かった。この近代史について、どのような違いがあるかももう少し具体的に話をしてほしい。
- 研究員 A27
近代史については、近代に焦点を絞って調査ができていないので、違いという申し上げにくい。SDGsについては、東京書籍では、5・6年生の一部で、教育出版では、各学年2ページずつ取り扱いがあった。日本文教出版は17項目について、3年生から6年生まで全て取り扱うようになっている。そこに違いがあると研究会で話題になった。
- 採決 <賛成多数により、東京書籍の教科書を選定>

④ 【種目：地図】

- 委員 Q28 着眼点「ふるさとへの誇りと愛着を育む、ふるさと教育の推進のための工夫がされているか」について、東濃地区に関心をもつための工夫について比較はされたか。
- 研究員 A28 岐阜県としては比較したが、東濃地域に絞った比較はしていない。
- 委員 帝国書院は、統計の中で美濃焼について土岐・多治見とはっきり書いてある。東京書籍は、美濃焼としか書いていない。この点でも、帝国書院が分かりやすいと思った。
- 委員 Q29 国語と書写に関しては、同じ発行者の方がメリットがあるということだった。社会の教科書は東京書籍になったが、地図は東京書籍でなくても差支えがないのか。メリット・デメリットを教えてください。
- 研究員 A29 調査項目と着眼点に従って、東京書籍と帝国書院の内容について調べ、このような結果になった。同じ発行者の方が分かりやすいところもあるかもしれないが、今回の調査結果は着眼点に沿って調べたところの結果である。
- 委員 Q30 社会と地図で同じ発行者を選んでも、それほど大きなメリットはないという解釈でよいのか。
- 研究員 A30 調査結果を見ると、社会については東京書籍、地図帳でいうと帝国書院がよく配慮されているという結果である。東京書籍同士でのつながりはあるかもしれないが、調査研究結果ではこの通りである。
- 委員 Q31 九州地区の地図の比較で色の濃さについての良さの話があったが、メリットがあるということはデメリットもあるということなので、どのようなメリット・デメリットがあるのかということをお願いしたい。色の濃さだけでなく、各県を示した文字の大きさが帝国書院の方が若干大きいという感じがするが、地図を初めて見たときは、文字の大きさは重要になると思うのだが、このことについての意見はどのような感じだったか。
- 研究員 A31 帝国書院の方が淡い色遣いのため、目に優しく、より配慮されていると研究会では考えた。各県を示した文字についても、帝国書院の方が少し明るい色を使っているのだから、見やすい、より配慮されていると研究会では判断した。
- 委員 社会科の基本的資料というのは、年表、地図、統計の3つだと思う。色彩とか、文字の大きさ等については、好みもあると思うが、統計については、帝国書院の地図の方が、かなり充実していて、差があると感じた。私が選ぶとしたら、小学生が扱う地図としては、帝国書院の方が優れているという意見をもった。
- 委員 子供たちは、どこで何に興味をもつかは、私たちには計り知れないものがある。この地図帳というのは、多分長い時間手にするものではないかと思うが、丁寧に研究して下さり、お礼を言いたい。
- 委員 デジタルコンテンツは、どの教科でも話題になっている。ここにもたくさんのコンテンツがある。コンテンツは教科書ではない。検定の対象にはなっていないと思っている。したがって、これらのコンテンツは載せ放題になっているのではないかと危惧している。教科書ではない、いわゆる学習資料としてのコンテンツの質を見ていく必要が、今の状況の中ではかなり大事な問題としてあるのではないかと。数ではなく、本当に教科書を補充しているものかどうか、コンテンツを全部見るということは大変だろうと思うが、検定をされてないという状況を踏まえないといけないのではないかと。
- 議長 今のご意見については、種目地図だけに限ることではなく、全般に関わることである。今回から調査研究の内容に二次元コードを加えた。その理由は、子供たちがタブレットを用いて目に触れ、学びに使うものだからである。それは調査研究の中でしていただいているとご理解いただきたい。
- 採決 <全員一致により、帝国書院の教科書を選定>

⑤ 【種目：算数】

委員 Q32 教科書が上下に分かれているメリット・デメリットについて議論がされたのであれば、もう少し詳しく教えてほしい。

研究員 A32 上下別冊になっているメリットは、大変軽くて扱いやすいということ。デメリットは、上下別冊になっていると下の教科書を使っているときに、上のことを振り返ることはできないということ。

委員 Q33 研究委員会においては、今説明されたことのどちらに重きを置いて審査をされたのかということと、東京書籍が6年生だけ合冊になっている意図をどのように考えられたのかということを知りたい。

研究員 A33 1冊にまとまっているメリットは大変大きいと考えた。いつでも振り返りができる。東京書籍の6年生はかなり厚いが、6年生は中学校に繋がる大事なところ。6年間を振り返るということで、後ろの方の巻末のところが大変充実している。中学校へ繋がるような紹介があり、6年生については、重さよりも内容の充実を優先しようと考えられたと思う。

委員 Q34 「基準に沿った調査研究による各者の評価」を比べると東京書籍と大日本図書がいい勝負だと思うが、東濃地区独自の調査項目ではどちらも「◎」が付いている。その他の重点項目で、ここが選択するポイントだということがあれば教えていただきたい。

研究員 A34 調査研究員でも意見が分かれ、どちらのメリットも大変よく理解でき大変悩んだ。「基準に沿った調査研究による各者の評価」の表で見ると、着眼点1－(3)は東京書籍の方に「◎」が付いている。東京書籍は、主体的・対話的で深い学びの観点から、問題解決的な学習や対話的な学習を行うための工夫がされている。ここで少し差がついている。東京書籍の中身を全般に見ると、ヒントをたくさん与えずに、「手がかりやこれまで勉強したことを使って自分で考えて取り組みなさい」というメッセージが感じ取れる。大日本では、教科書に書いてある通りにやっていると問題が解けてしまう。少し算数の苦手な子でも進めていきやすいというメリットはあるが、主体的に自分でもっとやりたいと思っている子にとっては、ちょっと物足りないという点で「○」にした。

議長 Q35 今、ご指摘いただいたように、上位2者の評価が拮抗しているので、どの違い、どこの差をより優先するのかということについて、貴重なご意見をいただいた。調査研究をしていただいた方たちの意見としては、着眼点1－(3)をより重視したいということではなかったか。

研究員 A35 はい。

委員 Q36 現在、使っている教科書を新しく変えると同じ学び方で学習してきたことが突然変わるということもある。そういった論議はされたか。

研究員 A36 論議はした。その上で、これまで使ってきた大日本図書のある意味丁寧で、どの子どもどの先生も使いやすいという点を評価してきた。しかし、これまでを振り返ってみて、本当に算数を楽しんでいる子を育ててきたのだろうか、という疑問が研究員会の中で出た。東京書籍は、子供たちにちょっと投げかけて「自分で考えてごらん」というところが多いので、難しいと思って嫌になる子もいるかもしれないが、その方ができた時に嬉しいと思う子が多いと考える。最終的には、算数を楽しんでいる子を増やすことをもっと考えていかななくてはならないのではないかという方向で意見がまとまった。使う中でちょっと使いにくいなと思うこともあるかもしれないが、それは私たち教員が意識を大きく変えて、少し困難な問題でも自分で解けた喜びを味わえるように授業や学習の仕方を工夫すべきである。

委員 Q37 6年生の算数の教科書を見ると、単元の配列が多少違うと思った。東京書籍は、「分数×整数」をやった後すぐに「分数×分数」を扱っている。また、図形領域においても「円の面

- 積」をやった後、「角柱・円柱」をやり、「体積」もやるといったように同じ領域をまとめて学習するようになっている。大日本図書は、「分数×整数」をやった後、ちょっとおいて、「分数×分数」をやるというようにバラバラに配列をしている。どちらがよいか。
- 研究員 A37 これまで使っていたものが大日本図書なので、研究員はこちらのやり方に慣れがある。しかし、東京書籍の配列を見ると、ある程度、同じ領域のもので深めていくやり方である。算数の資質能力を高めるという点では、東京書籍のやり方は、非常に効果があるのではないかと考える。
- 委員 Q38 2年生の九九の場面について、大日本図書は、2の段から学習を始めている。東京書籍は5の段からスタートするが、この辺の考え方の議論というのはされたのかどうか。また、ずっと現教科書を使って学習している中で、算数の学力的な水準が、非常に伸びているのか伸びていないのかという観点からいったときに、非常に大きな伸びは見られていないという現実がある。現行の教科書と学力向上という視点から、「準ずるよい教科書」を1度子供たちに触れさせてやることも必要ではないか。そういう大局的な議論があったのかどうか聞かせていただきたい。
- 研究員 A38 前半の2の段と5の段の議論はしていない。後半の部分は大いに議論した。東濃地区の現在の学力は、算数が苦手な子、好きでない子に照準を置いてできるようにしてきたことの、ある意味いい面でもあるし、弊害ではないか。だから、これを機に全ての子どもたちを本当に算数が得意な子、好きな子にしたい。こうした視点から、どちらの教科書がいいのかという議論を何度も何度も重ねてきた。
- 採決 <賛成多数により、東京書籍の教科書を選定>

⑥ 【種目：理科】

- 委員 Q39 5年生の「植物の発芽と成長」で見比べてみたが、東京書籍は観察実験素材としてつるなしインゲンを用いている。大日本図書はうずらインゲンを使っている。つるなしインゲンは比較的つるが伸びないので、教室の近くで栽培しやすいというメリットがある。うずらインゲンは、種子自体が大きいので、種のつくりを観察するのに適しているというメリットがある。実験素材については、調査をしていく上でどのような観点で話題にしていたのかを教えてください。
- 研究員 A39 今回、研究員会の中では、扱っている素材までは検討していない。理科専門の教師は子供に指導する時に、適した素材というものを選定していくので、扱う教師側がきちっとそこを見定めて使っていくってことになる。ただ、今回は若い先生や理科が専門でない先生が理科を指導する時に、どちらが扱いやすいかという観点で調査を行った。
- 委員 Q40 東京書籍の方は写真が綺麗で見やすい。教科書というより読み進んでいける資料集という感じで、とても見やすいと思った。算数のときのように、子供がどちらの教科書を使ったら理科を好きになるのかと考えたときにどのように思うか。
- 研究員 A40 この立場では、どちらかということは言いづらいところがある。理科を専門としている教師が扱った時、理科を専門としない教師が扱った時、また子供が扱った時で、どれがより教科書としてふさわしいか、というところで評価をしてきた。どこも写真は厳選して載せていると思う。A4版サイズは、子供が比較しやすく扱いやすいだろうということはある。
- 採決 <全員一致により、東京書籍の教科書を選定>

⑦ 【種目：生活】

- 委員 Q41 生活科という教科書なので、教科書の内容は多分どこも似たような感じがする。東濃独自の着眼点「経験年数等に関わらず適切な学習指導ができるか」ということを重点にして、採択

	した方がいいと思うのだが、これについては、教える側としていかがか。
研究員 A41	どの発行者の教科書も、子供たちの活動例が、絵で豊富に表されている。また、板書の例が教員にとってすごく参考になる。板書の例を参考にして活動をすれば、授業が活発になる。そういった板書例とか、活動の豊かさ、活動の絵の豊かさなどを参考にして比較をした。もう一つは、児童がいかに受け身にならずに、主体的に取り組めるかということが、東濃地区のもう一つの独自の採択基準になっているので、児童が自分たちから主体的に学ぶという構成になっているかということ、調査研究した。
委員 Q42	啓林館の教科書が一番、教師としては教えやすいという採点か。
研究員 A42	東京書籍も教えやすさは十分にあるので、「○」にしてある。もう一つの東濃独自の採択基準については、東京書籍に「◎」をつけた。
採決	<全員一致により、 <u>東京書籍</u> の教科書を選定>

⑧ 【種目：音楽】

委員 Q43	評価項目「児童が自ら関心をもって読み進め、自学・自習の活用できる工夫がされているか」については、両発行者とも、「◎」でないが、これについてどう思うか。
研究員 A43	音楽で自主学习につなげるというのはなかなか難しいところがある。「家族と一緒にわらべ歌で遊んでみよう」、「もっと調べよう」、「もっと学んでみよう」というようなコンテンツが充実していたが、自学となると、難しさはあるということで、「○」にした。ただ、配慮はされているということを感じた。
委員 Q44	見やすさという点で、パッと開いてみたときに全然違うのかなと思ったが、何が違うのかよく分からない。どのように違うのか。
研究員 A44	2者とも、色遣いとか、文字の大きさ、音符の示し方、リズムの示し方等を工夫していた。教育芸術社は、目に入ってくる情報量が適切な分量になっている。また、色と色の重なりという点での配慮があったので、「◎」をつけた。
委員 Q45	昔から大事にしている曲と最近の曲とのバランスは、どうなっているか。
研究員 A45	2者ともに「富士山」「虫の声」等、童謡のものも適切に位置付けていた。両者ともに、非常にバランスよく位置付けていた。
委員 Q46	高学年になると鑑賞の時間もあると思うが、クラシックや雅楽等の扱いについてどのような評価や論議をされたか教えていただきたい。
研究員 A46	2者ともにクラシックや日本の音楽が取り上げられていて、分量もさほど大きな差はなかった。教育芸術社は、ミュージカルやジャズ等も高学年になるにつれて取り上げていた。教育出版の方も、世界の音楽を扱った教材曲は入っている。
委員	音楽の技術だけではなく、音楽を楽しむことで歴史や社会、理科、数学等へも繋がっていく教科書である。すごくうれしく思った。
採決	<全員一致により、 <u>教育芸術社</u> の教科書を選定>

⑨ 【種目：図画工作】

採決 <全員一致により、日本文教出版の教科書を選定>

⑩ 【種目：家庭】

委員 どちらの教科書もガスのコンロを使用している。今の家庭はIHが多いような気がする

- Q47 が、実際の家庭と乖離してないか。米の炊き方も普通家庭ではほとんど電気炊飯器だが、教科書の中では鍋で炊いている。実際、学校でも鍋炊きのご飯を作っているのか。
- 研究員 A47 東濃管内の学校は、ガスで調理をしているととらえている。家庭科の学習は、作り方を覚えるというよりは、お米がどのようにでき上がっていくかという科学的な見方を重視している。ガスコンロでお米を炊く場合とIH電気ジャーで炊く場合とでは、確かに時間の差は出てくる。しかし、米からご飯ができ上がる過程は同じなので、そこに着目させながら学習を進めている。
- 委員 Q48 ユニバーサルデザインの視点から、ミシンを使うときやボタンを付けるときに子供が分かりやすいのはどちらだったか教えていただきたい。
- 研究員 A48 今回分かりやすさについては、字のフォントに着目している。家庭実践という視点からは、両発行者ともQRコードがついていて、動画を自分で取り込んで見ながらやっているとされている。そこに着目しながら、動画の数とその内容について家庭実践への繋がりを見た。また、家庭科は家庭実践が必要になってくるので、生活の課題と実践という題材を設けることになっている。そこにおいてどのように取り上げられているかということは比較した。
- 委員 Q49 衣食住の中で、教科書はどこを一番重要視しているのか。開隆堂の教科書の最後には食材の切り方や、食事の用具について紹介されている。男女関係なく1人で生活しなくてはいけないことがあるので、大事な内容である。何かのときに、「そういえば教科書に載っていた」と見てもらえる教科書を選定したい。
- 研究員 A49 衣食住の分量については、各発行者ほぼ同じである。動画の数が東京書籍は、「衣」の動画が多い。開隆堂は「食」の動画が多い。
- 委員 Q50 コロナが流行り、調理実習が全くできないまま中学校へ進んだ小学生もいたのではないのか。その分を家庭でやってきなさいということもあったと思う。QRコードには動画がたくさんあるが、家でやるということについて話題になったかどうかを教えていただきたい。
- 研究員 A50 確かにこの3年間、調理実習ができない学校は数多くあった。自立した子供たちを育てる教科書として、すごく心配をしている。そこで、特に基礎基本をどのように定着させていくのか、というところに着目しながら教科書を調査した。両発行者とも基礎基本を定着させることについては、きちっとおさえられていて大きな差はなかった。どの時期に学ばせるかというところで差が見られたと思っている。
- 委員 Q51 開隆堂の教科書は安全防災の記述があるが、家庭科で防災については教えるのか。
- 研究員 A51 特に「住」の学習で安全ということに着目させながら学んでいく。防災については最近災害が多いので、確実に話題にしながら学習をしていく。ただ、防災という題材としてあるわけではなく、住生活の学習の中に入れ込んでいくということになる。
- 採決 <全員一致により、開隆堂出版の教科書を選定>

⑪ 【種目：保健】

- 委員 Q52 どちらの発行者も3・4年生、5・6年生で薄い教科書1冊だが、何時間ぐらいの時間を割いて教える内容の教科書なのか。
- 研究員 A52 3年生が4時間、4年生が3時間で、3・4年生で7時間となる。5・6年生は、5年生が7時間、6年生が8時間で教科書が使用される。
- 委員 Q53 保護者の中で、命の大切さや性教育について、もう少し重点的にやれないかという声もある。今回、教科書が変わる中で、小学校において命の大切さとか性教育について、どのように取り上げてきているのか。そのことについて研究員の中で話題になったかについて教えて

- いただきたい。
- 研究員 A53 性の多様性の取り上げ方について各者の違いを調査した。性については4年生の「体の成長と私」という分野で取り上げられている。6年生でも少し取り上げられている。命については、保健体育では、一番大事なところなので、命に関わることが一本通して柱となり、各単元が進められている。特に5年生の「けがの防止」と6年生の「病気の予防」は命に関わる大事な単元である。
- 委員 Q54 私個人としては、感染症のところで感染症の恐ろしさをもう少し取り上げてほしいと考えている。
- 研究員 A54 性の感染症については小学校では取り上げていないが、中学校でエイズや性感染症について取り上げている。新型コロナウイルスの感染症については、「予防」の単元でどの発行者も取り上げている。この単元では、予防策についても詳しく取り上げていることが今回の研究で分かった。
- 委員 Q55 インターネット等の犯罪被害の防止についての取り扱いは比較したか。
- 研究員 A55 タブレットパソコンの使い方については取り上げていたが、パソコンに関するネットの被害という細かいところまでは取り上げられていなかった。
- 委員 東京書籍はかなり細かく絵があり、「こういう場合には気を付けなさい」ということが書いてあったのでお聞きした。
- 採決 <全員一致により、東京書籍の教科書を選定>

⑫ 【種目：英語】

- 委員 Q56 3者の教科書のうち2者は単元が4段階の構成で、1者は3段階だが、それぞれどのような構成なのか特徴があれば教えていただきたい。
- 研究員 A56 東京書籍を例に挙げると、スターティングアウト、ユアターン、エンジョイコミュニケーション、オーバザホライズンというステップを踏んでいる。スターティングアウトは、その単元でどんなことを勉強するのかというイメージを児童がもつことができる。それをもとに、ユアターンは「今度は、あなたの場合だよ」ということで、自分の表現の準備をしていく。3つ目のエンジョイコミュニケーションは、それを実際に使ってやりとりを楽しむ。4つ目のオーバザホライズンは、単元で使った内容から世界を広げるイメージ。別の国を扱ったり、他の単語に触れたりというステップになっている。3つのステップになっている発行者は、まず全体を知り、自分のことの準備をして、伝え合って終わりという流れである。東京書籍は、さらにそこにその単元の言語材料を使いながら世界を広げるページが準備されている、というところに他の発行者との違いがある。
- 委員 Q57 文字についての扱いは、3者に何か違いがあるのか。
- 研究員 A57 文字の扱いについては、どの発行者も丁寧であると感じた。音と結びつけていく過程で、東京書籍はまずよく音に慣れさせて、6年生できちっと結びつけるという言語習得的な課程の配慮がされていた。幅広くしてあるかといったことについては各者同じような工夫がされていると感じた。
- 委員 Q58 デジタル教科書は全ての発行者で準備されているのか、そこでの評価があれば教えていただきたい。
- 研究員 A58 着眼点の2-2「ICTを活用した学習活動の工夫」については、どの発行者もQRコードから読み取れるので、2-2の評価は大きくQRコードの差になる。デジタル教科書については、今回英語は紙の教科書だけでなく、デジタル教科書についても検証していくように言

われているので調査をした。ただ、発行者によっては全てを公開しておらず、まだ準備ができてないところもあった。今見えるところで、明らかに差があると思ったところについては評価に加味した。

採決 <全員一致により、東京書籍の教科書を選定>

⑬ 【種目：道徳】

- 委員 Q59 6月にLGBT議会増進法という法律が施行された。教育出版の3年生に「タンタンタンゴはパパ2人」という教材が載っている。「アメリカのセントラルパークの動物園のオス同士のペンギンがつき合っていて、卵を拾ってきて温め子供が生まれる」という話。3年生ではまだ性の自覚が確立されてない。「差別はいけないこと」「その人の生き方は自由」という教育は非常に重要だが、低学年の子にそういった教育が果たして本当にいいものかどうか疑問に思う。先生方にしてもそれをどのように教えるのか、各市の考えを聞かせてほしい。
- 委員 A59 今後、大きな課題になってくると思っている。ただ私の考えとしては、こういう事例については、社会の動向に沿いながら指導をしていくことが大切ではないかと思っている。
- 委員 教育基本法にもあるように、子供を育てるのは第一に家庭。保護者の意見を十分組み入れながら慎重な教育をお願いしたい。
- 委員 Q60 教科書に書き込むようになったものがたくさん出てきたが、返却された本に書き込みが最近増えてきたという話を図書館の方から聞く。子供たちには、書いてもいいものと書いてはいけないものがあるということ伝えて欲しい。
- 研究員 A60 公共物と自分のものの扱いは当然違うものなので、そういった指導については、教育で実施する。また、自分のものを大切にすることは、人を大切にすることにも繋がるので、ご指摘いただいた通り、大事にしていきたいと考えている。
- 委員 Q61 いじめの問題や情報モラルのことが、どのように扱われているかと思っていた。すごく分かりやすく調査していただいて、ありがたいと感じた。ちょっと前までは「いじめは駄目だ、見逃しちゃいけない」という考え方があったが、今は、「いじめを見逃さないといことを大事にしよう」という考え方が進んでいるようだ。今回検証された時に、各者の題材の中に、「いじめを見逃さない」という観点での特徴があったか教えていただきたい。
- 研究員 A61 今日的な課題ということで、直接いじめの問題に関わる内容を扱う教材、間接的に扱う教材というように複数の教材を組み合わせ、いじめ問題を各者が取り上げている。また、多面的・多角的な見方という点で、いじめをする側とされる側というように視点を変えて、それぞれどんな思いがあるかということを理解させながら「どうしていったらよいのか」ということを話し合う問題解決的な学習につなげていっている。通り一遍の「やっちゃいけないよ」ということで終わらせるのではなく、その中での苦しさや葛藤についても扱うというところは、各者それぞれ出ており、変わってきたと思っている。
- 委員 Q62 昔、道徳の授業を行うときに、先生がまずは資料に惚れむということを先輩によく言われた。資料をよく読みこなして資料に惚れこまない限り子供に伝わらないとよく言われた。教科書の使いやすさという点では出ているが、研究委員会の中で、「こういう資料で授業がしたい、だからこの教科書だ。」といった議論が出たのか教えていただきたい。
- 研究員 A62 短い時間の中での研究だったので、そこまで議論することは難しかった。ただ、東濃地区は若い先生方が多い。「議論する道徳」について、ベテランの先生が若い先生に教えるためにはどの発行者が良いかについて調査をした。よい資料は定番資料として残ってきている。それについては、使いやすいという話があった。
- 委員 Q63 自我関与について現場の授業を見ると、議論はなされていても本当の意味での自己見つけ、道徳的諸価値の理解に基づいた振り返り、という部分が弱いのではないかと思う。教科

書の学習の手引きにも「どうあるべきか、どうしたらいいか」というところを深める発問は各者出ているが、自己を見つめることについて、例えば光村図書の学習の手引きの中で、こういうのはそれに当たるのではないか、というものが何かあれば教えてほしい。

研究員
A63 自我関与について、昔は資料から離れないで授業を進めることが多かった。今は、自分はどうするのかについて考える時間を、仲間と話し合っただけで考えを深め広げる展開の後段のところをとることが多い。そのニーズに応じて、今の教科書は導入の初発問が巻頭に入れてある。光村図書と光文書院とを比べてみても、子供が分かりやすいような、考えやすいような表現の仕方がしてある。自己関与しやすいように工夫があるととらえた。

委員
「自己を見つめる」ということについて、例えば今使っている光村図書2年生の「黄色いベンチ」という教材は、導入の発問が「みんなで使うものにはどんなものがあるかな」となっている。あらかじめ、ロイロノートを使って子供たちにアンケートをとっておく。最後に本時の価値をまとめ、もう1度導入で使ったアンケートを見せて、自分を見つめるということをする。そうすることで最後は、「次の人のことを考えて使えていたかな」という視点で、自己を見つめることができるように工夫がされている。

委員
Q64 道徳の教科書は丁寧だなと思った。光村図書で言う「いつも自分に問いかけながら考えよう」という道徳の学び方があるが、最後に「こんなことを考えて」と教科書が考えることを決めてしまっている。子供が自分で考えていくことを逆に止めているような感覚をもった。先生は指導しやすいが、本当にそれでいいのかと思った。これがあることによって、道徳なのか、文の読み取りなのか、先生が求める答えを導くための質問ということにならないか不安な気持ちがある。道徳は、一つの答えを求めるのか、それぞれ個人の考えがあって、それでいいよとなるものなのか、教えていただきたい。

研究員
A64 いろんな意見の子供たちから出して、促していこうという意図をもって教科書は作ってあるが、それが多くあることで言わせようとしすぎているという印象をもたれたのかもしれない。子供が考えやすいような投げかけをしているのが、光村図書だと調査研究ではまとめさせていただいた。他の教科と違って、答えが一つと決まっているわけではない。いろんな答えがあってよいというところが、道徳の特色だと思っている。ただ、何でもいいというわけではない。いろいろな意見を聞く中で、自分の意見と比べて、自己を見つめることを求めていきたい。もちろん、人間としての弱さもあるので、「そうは言ってもなかなかできないよね」ということも含め、今後、自分がどう生きていったらいいのかということを見つめさせたい。答えは一つではなく、それを一つに決めてしまうというのは、押し付けになってしまうので、それでは道徳にはならないと思っている。

委員
光文書院の教科書5年生に、保護犬から救助犬になった資料や消えそうになる犬を助けている人の資料等がある。人間の命の尊さはもちろんだが、知らないまま消えていく小さい命もあるので、このような資料を数多く取り入れていただくと、小さいものの命を守っていかうとする気持ちを育てていくことに繋がるのではないかと思った。

委員
Q65 光文書院と光村図書で、今の教科書と新しい教科書の資料は、幾つぐらい同じものが載っているのか。

研究員
A65 資料については、今回採択するものについて検討させていただいたので、今使われているものとの比較はしていないが、大きくは変わってない。

委員
Q66 道徳の授業を見させていただくと、若い先生たちもオリジナリティがある。教科書はあるが、それに沿ってペーパーサートで人形を作ったり、自分のことやポイントをプリントやタブレットに書かせたりしている。あまり教科書を使っていなというか、最初に読むだけで、あとは子供たちの発言で成り立っている授業がたくさんあって、とても楽しい。若い先生方にも十分な理解ができる、そういった授業を展開できるというところで、それぞれの発行者で

研究員 A66 | こういふ点がよかつたといふことがあれば聞かせていただきたい。
初めの部分のガイダンスで「道徳の授業は、こゝういふものですよ。こゝういふに進めていくといひですよ。議論するといふ話し合ひは、こゝういふふう意見を言つていくといひですよ。」といふことが、丁寧に書かれてゐる。子供に対しての投げかけについても、最初は資料の中の登場人物を通して主題について考える投げかけを行い、その後、順番に資料から離れて「あなた自身だったらどうですか」といふ投げかけを行つていく。これらの投げかけを通して自分事としてとらえ、その上で仲間とまた交流して考えを広げ深めていく。この流れはどの教科書も同じである。ただ、そこに使われてゐる言葉の表現の仕方が子供にとってわかりやすいのか難しいのかといふところに違いがあり、推薦をさせていただいた発行者は優れてゐた。

採決 <全員一致により、光村図書出版の教科書を選定>

会長 | 小学校用教科書の選定が終了したので、選定結果を確認する。

- 【国語】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・光村図書出版
- 【書写】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・光村図書出版
- 【社会】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【地図】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・帝国書院
- 【算数】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【理科】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【生活】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【音楽】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・教育文芸出版
- 【図画工作】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本文教出版
- 【家庭】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・開隆堂出版
- 【保健】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【英語】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・東京書籍
- 【道徳】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・光村図書出版

以上を、令和6年度使用小学校用教科用図書の採択原案とする

(2) 令和6年度使用中学校用教科用図書の提案及び採択

- ・事務局より、次の通り提案
- ① 令和6年度使用中学校用教科用図書については、直近の採択替えが令和2年度のため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条の規定により、令和5年度と同一の教科用図書を使用することとする。
- ② 全ての教科書について、これまで不都合や採択の公正を欠くといふ報告、教科書展示会でのご意見はなかつたことを、併せて報告する。
- ③ 令和6年度使用小・中学校用教科用図書一覧に、選定いただいた小学校用教科書を加え、東濃採択地区の採択原案とする。

<全員一致により、事務局提案を可決>

5 諸連絡

- ・今後、各市教育委員会において、採択原案をもとに採択の議決を進めていただく。
- ・東濃地区の採択は、5市の教育委員会での議決が全て終了した時点となる。
- ・採択に係る情報の公開は9月1日からとなる。8月31日までは、情報の保持や公正確保に十分留意願いたい。前回及び今回の協議会配布資料につきましても、終了後回収するので、机上に残してい

ただき、持ち帰らないようお願いしたい。

- 地区協議会関係文書については、事務局である中津川市教育委員会が窓口となる。
- 協議会に関わる旅費については、協議会より支払う。誤って県費旅費で請求をされたという方は各各市教育委員会までお知らせ願いたい。

6 東濃採択地区協議会副会長 あいさつ

- 長時間にわたる慎重な審議に感謝申し上げます。研究員の方も丁寧な答申をしていただいた。
- ここで審議されたこと、この教科書はなぜいいのか、何がいいのかということも含めて、伝えていく必要がある。
- 今後も関心をもっていただき、本当に上手く教科書を使っているのかということを見ていただきながら、何か気がついたことがあれば教育委員会に伝えていただきたい。
- 来年度は中学校教科書の採択替えとなる。これからも学校教育にさらに興味関心をもっていただいて、ご支援いただきたい。